

大府市長  
久野 孝保 殿

2008年12月16日

日本共産党大府市議団  
山口 広文  
久永 和枝

## 半田養護学校の卒業生就労支援の要望書

金融・経済危機のもとで、非正規労働者の解雇が社会問題化しています。大企業などは、景気が悪くなると障がい者や、非正規労働者の首切りが真っ先に行われるのが過去の例です。今回の金融・経済危機は短期間での解決は難しいとも報道されています。従って障がいをもつ養護学校の生徒は、民間企業への就職の厳しさが予測されます。

半田養護学校では今まで卒業生の半数は民間企業に就職できたと聞いていますが、障がい者の雇用は引き続き確保してほしいものです。半田養護学校には現在、大府市内の児童生徒が58名通学し、3月には5名の卒業生が見込まれ、今後も毎年卒業生が社会に出てきます。民間企業の就職が厳しくなれば、通所施設を希望するケースが増えることが予測されます。一方、障害者自立支援法施行後、現在の施設を維持する事も厳しくなり、新たな施設をつくる力はどこもないと言われていています。

大府市では、今年度末には障がい者福祉計画が作成されますが、市の大きな支援がなければ通所施設は増えません。従って、半田養護学校の卒業生が安心して生活できる為にも、障がい者福祉計画に通所施設への建設・管理運営支援を緊急課題とし、大府市の支援をお願い致します。

### 記

- (1) 大府市内の企業に対し、障がい者の雇用を引き続き行うよう申し入れてください。
- (2) 半田養護学校の卒業生が安心して就労できるよう、障がい者福祉計画に通所施設の増設と、大府市の建設・管理運営支援を行ってください。

以上